

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

1 手続の流れ等の説明及び公表の構成

(1) 対象事件・合議体の構成

ア 対象事件

裁判員裁判の対象となる事件は、法定刑に死刑、無期懲役・禁錮を含む罪に係る事件と、法定合議事件のうち故意の犯罪行為で人を死亡させた事件である（法2条1項）。

ただし、裁判員やその親族等に危害が加えられるなどのおそれがあり、裁判員の職務の遂行ができないような事情がある場合には、決定により裁判員裁判対象事件から除外され、裁判官のみで構成する合議体で取り扱う（**除外決定**，法3条1項）。

イ 合議体の構成

裁判員裁判対象事件を取り扱う**合議体の構成**は、原則的には裁判官3人と裁判員6人であるが、例外的に、公訴事実争いがなく、事件の内容等に照らし適当であり、当事者にも異議がない事件については、裁判官1人と裁判員4人の合議体で審理・裁判することができる（法2条2項，3項）。

(2) 裁判員裁判における訴訟手続の流れ

ア 公判前整理手続

刑事訴訟手続は、検察官が、裁判所に対し、被告人の処罰を求めて公訴提起（起訴）することにより開始される。裁判員裁判対象事件が起訴された場合、裁判所は、**公判前整理手続**に付さなければならない（法49条）。

公判前整理手続では、当事者による主張の明示や証拠の開示等を通じ、争点及び証拠の整理を行うほか、公判の審理計画を策定し、公判期日を定めるなど公判手続の進行上必要な事項を定める。そして、裁判所は、当事者との間で争点及び証拠の整理の結果を確認し、公判前整理手続を終了させる。

なお、裁判員が加わって審理が開始された後に、鑑定のために長期間審理が中断するような事態は望ましくないことから、裁判員裁判対象事件の公判前整理手続で鑑定を行うことが決定された場合、鑑定結果の報告までに相当期間を要するときは、公判開始前に、鑑定の経過及び結果の報告を除く鑑定の手続を行うことができる（**第1回公判期日前の鑑定**，法50条1項）。

審理期間と対比した公判前整理手続の期間・期日回数の状況は、図表33及び図表35ないし図表40のとおりである。

イ 公判審理

(ア) 公判手続は、原則として公開の法廷において開く公判期日において行う。公判期日の指定に当たっては、できる限り連日開廷し、継続して審理を行うようにしなければならない（刑事訴訟法281条の6）。公判の**開廷回数・実審理期間**の状況は、図表42ないし図表45のとおりである。

公判期日においては、まず、人定質問や検察官の起訴状朗読、被告人及び弁護人の被告事件についての陳述等が行われる（冒頭手続）。

続いて**証拠調べ手続**に入り、検察官や弁護人が証拠により証明しようとする事実を述べる冒頭陳述を行い、裁判所が公判前整理手続の結果を明らかにした上、証拠物や証拠書類の取調べや**証人尋問**等が行われる。また、被告人には黙秘権があるが、被告人が自ら供述する場合は**被告人質問**も行われ、その結果も証拠となる。

証拠調べ手続が終了すると、弁論手続が行われ、検察官や弁護人が事実認定や法律の適用に関する意見等を述べ（検察官の論告・求刑、弁護人の弁論）、最後に被告人に対しても事件についての意見を述べる機会が与えられ（最終陳述）、審理を終結する（結審）。

取り調べた証拠数・証人数、証人尋問時間・被告人質問時間の平均や分布の状況は、図表46ないし図表57のとおりである。

(イ) 同一の被告人に対し、複数の事件が起訴された場合、弁論の併合（**客観的併合**）がされることがある。客観的併合がされている事件について、公訴事実の数別に、開廷回数・総審理時間や証拠調べの状況を図表58ないし図表61で示した。

他方、同一の被告人に対し、複数の事件が起訴され、弁論を併合したままだとその審理が長期に及ぶ場合などについて、裁判員の負担を軽減しながらも、刑の量定も含め適正な結論が得られるように、**区分審理**の制度が設けられた（法71条以下）。これは、併合した事件のうち一部の事件を区分し（区分審理決定）、順次、区分した事件ごとに審理を担当する裁判員を選任して審理し、有罪・無罪

に関して部分判決を行い、これを踏まえて、新たに選任された裁判員の加わった合議体が残りの事件を審理した上、併合した事件全体について刑の言渡しを含めた終局判決を行うというものである。なお、区分事件に含まれる被告事件の全部が裁判員裁判対象事件に該当しないときなど、裁判所の決定によって、構成裁判官のみで構成する合議体で、その区分事件の審理及び裁判を行う場合もある（法74条）。

区分審理決定のあった事件の審判の数ごとの内訳、区分審理決定の有無別にみた開廷回数及び開廷時間の平均や分布の状況は、図表62ないし図表64のとおりである。

ウ 評議

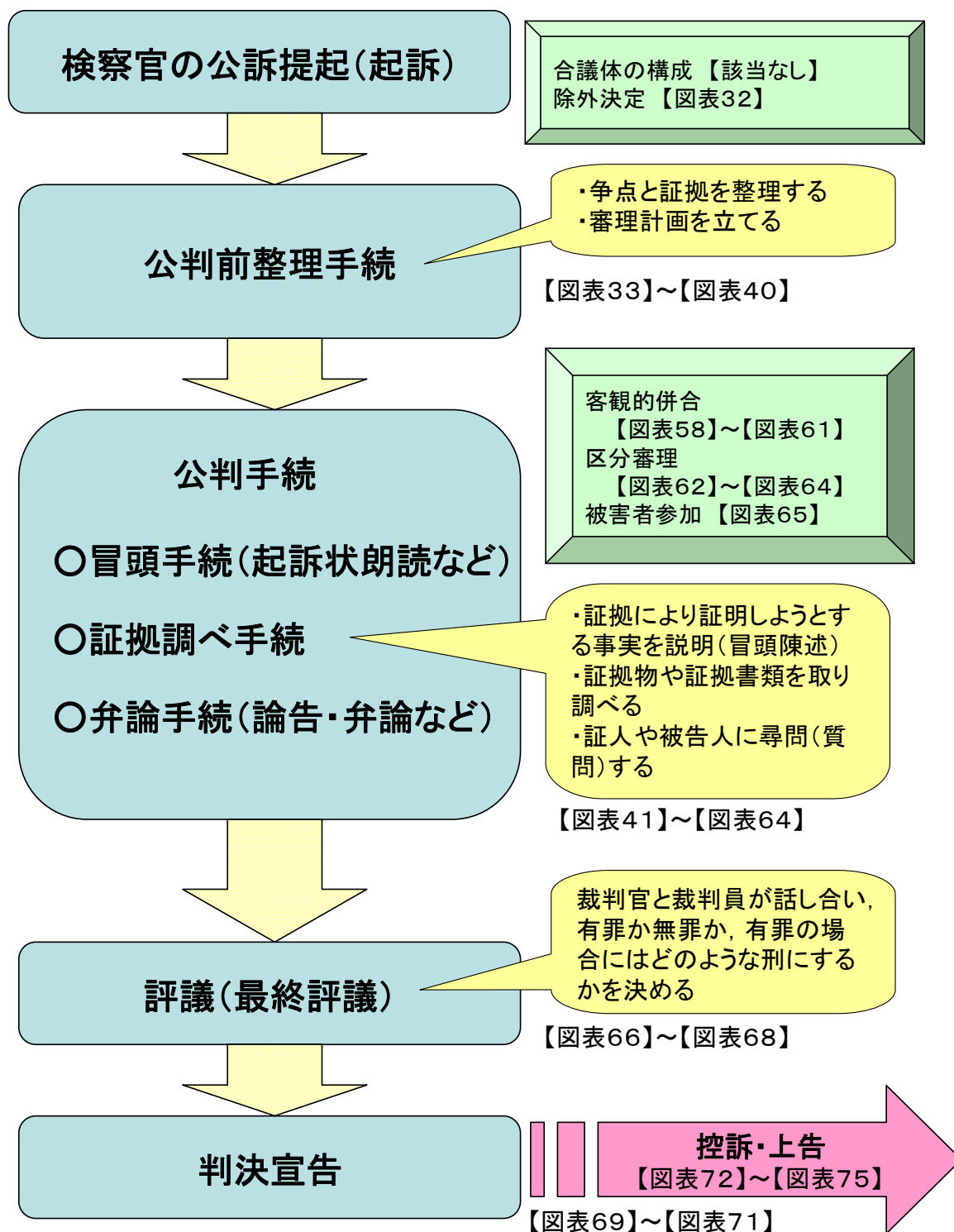
公判審理が終結すると、合議体を構成する裁判官と裁判員は、**評議**を行い、有罪か無罪か、有罪の場合にはどのような刑にするかを議論して決める。なお、審理の間にも、随時評議が行われることがあり（中間評議）、それとの対比において、上記のような結審後に行われる評議は最終評議と呼ばれる。最終評議における評議時間の平均や分布の状況は図表66ないし図表68のとおりである。

エ 裁判・控訴・上告

評議において有罪・無罪、有罪の場合には量刑につき結論が決まると、判決が宣告され、事件は終局する。第一審の判決に不服がある当事者は、高等裁判所に控訴することができ、控訴審判決に不服がある当事者は、最高裁判所に上告することができる。

裁判員裁判の第一審の裁判結果や、控訴理由、控訴審の結果、上告理由、上告審の結果の状況等は、図表69ないし図表75のとおりである。

オ なお、公判手続（公判前整理手続を含む。）の流れをフローチャートで示すと、以下のとおりである。



(3) クロス集計の視点

公判手続（公判前整理手続を含む。）については、自白事件と否認事件で運用の在り方が異なることを踏まえ、自白・否認別のクロス集計を基本としつつ、その他の様々なクロス集計も織り込みながら、情報を提供することとした。このうち、公判前整理手続に関しては、期間・期日回数について、審理期間全体との対比も示しつつ、平均値や分布等の情報を盛り込んだ。また、裁判員裁判以外の裁判との対比のため、地裁通常第一審事件における審理期間や開廷回数の推移も参考として示した。

2 概況

平成23年の裁判員裁判対象事件の公判手続に関する概況は、図表29のとおりである。各データの詳細は右欄外に記載した各図表を参照されたい。

図表29 裁判員裁判対象事件の公判手続概況データ

事項（平均）		区分			
		総数	自白	否認	
平均審理期間	受理～第1回	8.1(月)	6.6(月)	10.1(月)	(注) 図表41参照
	受理～終局	8.9(月)	7.3(月)	10.9(月)	
平均開廷回数		4.1(回)	3.6(回)	4.9(回)	(注) 図表44参照
平均公判前整理手続期間		6.4(月)	5.0(月)	8.3(月)	(注) 図表37参照
平均公判前整理手続期日回数		5.1(回)	3.9(回)	6.8(回)	(注) 図表33参照
平均評議時間		564.1(分)	468.4(分)	696.3(分)	(注) 図表66参照
平均取調べ証拠数		32.5(個)	30.9(個)	34.7(個)	(注) 図表46参照
平均取調べ証人数		2.3(人)	1.5(人)	3.4(人)	(注) 図表47参照
平均証人尋問時間		165.4(分)	80.2(分)	259.6(分)	(注) 図表49参照
平均被告人質問時間		150.3(分)	119.4(分)	190.9(分)	(注) 図表51参照
平均開廷時間		662.3(分)	492.0(分)	885.5(分)	(注) 図表55参照

(注) 刑事通常第一審事件票及び刑事局への個別報告による。

3 審理

(1) 合議体の構成・除外決定

合議体は、すべての事件で裁判官3人と裁判員6人で構成された。また、裁判員法3条1項の除外決定がされた人員は、平成21年及び平成22年に終局した事件においては、いずれも0人であったが、平成23年中に終局した事件においては、2人であった。

図表30 合議体の構成別の判決人員（罪名別）

（裁判官1人と裁判員4人の合議体なし）

図表31 合議体の構成別の判決人員（実審理期間別）

（裁判官1人と裁判員4人の合議体なし）

図表3-2 罪名別の除外決定がされた判決人員

罪名	除外決定がされた 判決人員
総数	2
殺人	2

(注) 刑事通常第一審事件票による実人員である。

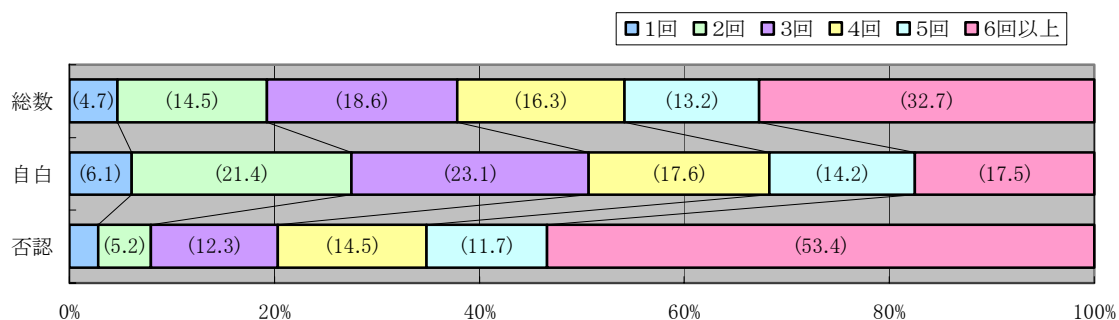
(2) 公判前整理手続

公判前整理手続期日回数の平均及び分布状況（自白・否認別）は、図表33のとおりである。同表には、平成18年から同20年までの間に公判前整理手続を実施した裁判員裁判対象罪名の事件における自白・否認別の公判前整理手続期日回数の平均及び分布状況のデータを参考添付した。なお、公判前整理手続において鑑定の手続を行う旨の決定（法50条。以下、「第1回公判期日前の鑑定」という。）をして判決に至った人員を罪名別にみると、図表34のとおりである。

図表33 公判前整理手続期日回数別の判決人員の分布及び平均公判前整理手続期日回数（自白否認別）

	判決人員	公判前整理手続期日回数						平均公判前整理手続期日回数(回)
		1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	
総数	(100.0) 1,513	(4.7) 71	(14.5) 220	(18.6) 281	(16.3) 247	(13.2) 199	(32.7) 495	5.1
自白	(100.0) 873	(6.1) 53	(21.4) 187	(23.1) 202	(17.6) 154	(14.2) 124	(17.5) 153	3.9
否認	(100.0) 640	(2.8) 18	(5.2) 33	(12.3) 79	(14.5) 93	(11.7) 75	(53.4) 342	6.8

(注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
2 () は判決人員に対する割合 (%) である。



第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

(参考) 裁判員法施行前の地裁刑事通常第一審事件における公判前整理手続を実施した裁判員裁判対象罪名の事件の公判前整理手続期日回数別の判決人員の分布及び平均公判前整理手続期日回数(自白否認別) (平成18年～20年累計)

	判決人員	公判前整理手続期日回数							平均公判前整理手続期日回数(回)
		0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	
総数	3,080	94	1,160	853	437	248	135	153	2.3
自白	1,783	84	890	511	180	68	32	18	1.7
否認	1,297	10	270	342	257	180	103	135	3.1

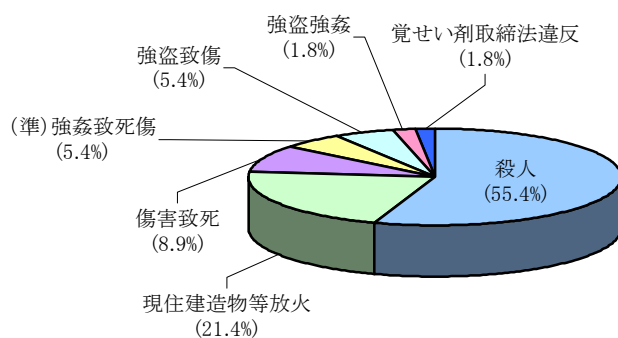
- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
2 「判決人員」は、有罪人員と無罪人員の合計である。

図表34 罪名別の第1回公判期日前の鑑定(法50条)を行った判決人員

	判決人員	鑑定を行った判決人員
総数	1,525	(3.7) 56
殺人	337	(9.2) 31
現住建造物等放火	151	(7.9) 12
傷害致死	131	(3.8) 5
(準)強姦致死傷	88	(3.4) 3
強盗致傷	320	(0.9) 3
強盗強姦	46	(2.2) 1
覚せい剤取締法違反	167	(0.6) 1

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
2 ()は判決人員に対する割合(%)である。

第1回公判期日前の鑑定(法50条)を行った人員の罪名別の割合



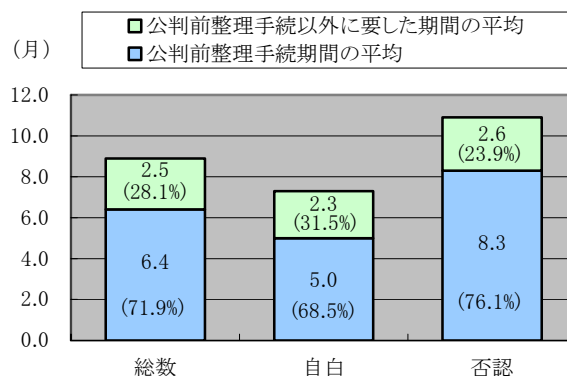
第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

平均審理期間、公判前整理手続期間及び同手続以外の手続に要した期間の平均（自白・否認別、罪名別、第1回公判期日前の鑑定の有無別及び開廷回数別）をみると、図表35ないし図表39のとおりである。公判前整理手続以外の手続に要した期間とは、1)受理から公判前整理手続に付する決定までの期間、2)公判前整理手続終了から第1回公判期日までの期間、3)実審理期間の合計である。それぞれ全審理期間に占める公判前整理手続期間と同手続以外の手続に要した期間の平均を示し、かつ、それぞれの割合をグラフ化したものを添付した。

また、図表35には、平成18年から同20年までの間の公判前整理手続に付された地裁第一審事件、裁判員裁判対象罪名の事件及び法定合議事件全体の各データを参考添付した。

図表35 自白否認別の平均審理期間及び平均公判前整理手続期間

	平均審理期間(月)	うち公判前整理手続期間の平均(月)	うち公判前整理手続以外に要した期間の平均(月)
総数	8.9	(71.9) 6.4	(28.1) 2.5
自白	7.3	(68.5) 5.0	(31.5) 2.3
否認	10.9	(76.1) 8.3	(23.9) 2.6



(注) 1 刑事通常第一審事件票による。
2 () は平均審理期間に対する割合 (%) である。

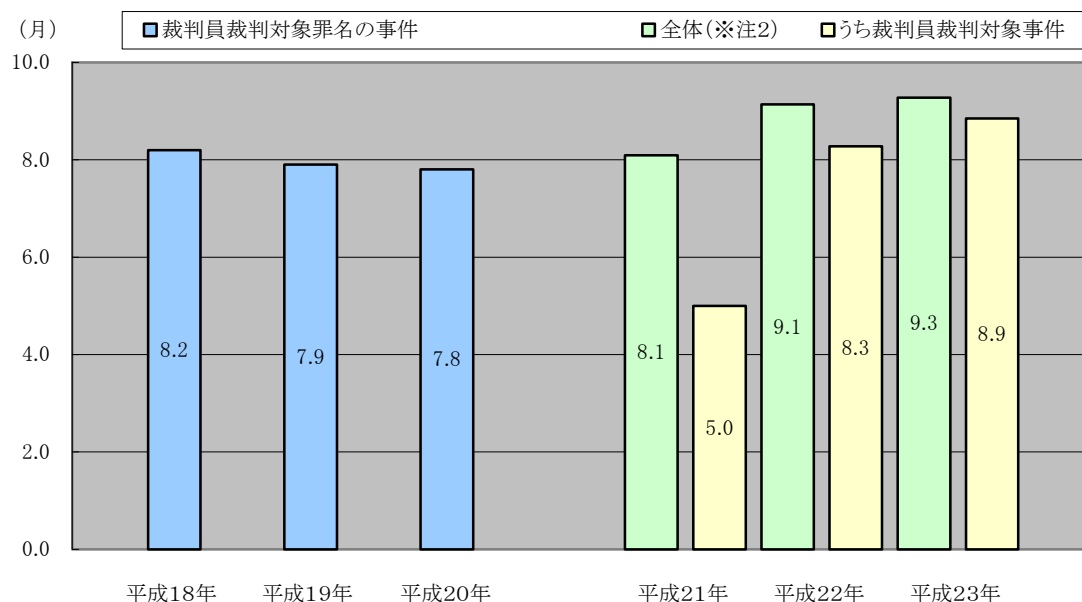
第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

(参考) 地裁刑事通常第一審事件における公判前整理手続を実施した終局事件の自白否認別の平均審理期間及び平均公判前整理手続期間並びに法定合議事件全体の自白否認別の平均審理期間(平成18年～20年累計)

	公判前整理手続に付された通常第一審事件全体			うち裁判員裁判対象罪名の事件			法定合議事件全体
	平均審理期間(月)	うち公判前整理手続期間の平均(月)	うち公判前整理手続以外に要した期間の平均(月)	平均審理期間(月)	うち公判前整理手続期間の平均(月)	うち公判前整理手続以外に要した期間の平均(月)	
総数	6.8	(44.1) 3.0	(55.9) 3.8	6.6	(43.9) 2.9	(56.1) 3.7	6.8
自白	5.3	(45.3) 2.4	(54.7) 2.9	5.3	(45.3) 2.4	(54.7) 2.9	5.2
否認	8.6	(43.0) 3.7	(57.0) 4.9	8.3	(44.6) 3.7	(55.4) 4.6	10.8

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による。
 2 有罪人員(一部無罪を含む。)及び無罪人員を元に算出した。
 3 「法定合議事件全体」には、終局時の罪名が裁判所法26条2項2号に該当する事件を掲げた。
 4 ()は平均審理期間に対する割合(%)である。

(参考) 地裁刑事通常第一審事件における平均審理期間の推移



- (注) 1 公判前整理手続を実施していないものを含む。
 2 有罪人員(一部無罪を含む。)及び無罪人員を元に算出した。
 3 「全体」とは、裁判員裁判対象罪名の事件及び裁判員裁判対象事件の総数をいう。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

図表36 自白否認別・主要罪名別の平均審理期間及び平均公判前整理手続期間

	総 数			自 白			否 認		
	平均審理 期間(月)	うち公判前 整理手続 期間の平 均(月)	うち公判前 整理手続 以外に要し た期間の平 均(月)	平均審理 期間(月)	うち公判前 整理手続 期間の平 均(月)	うち公判前 整理手続 以外に要し た期間の平 均(月)	平均審理 期間(月)	うち公判前 整理手続 期間の平 均(月)	うち公判前 整理手続 以外に要し た期間の平 均(月)
総数	8.9	(71.9) 6.4	(28.1) 2.5	7.3	(68.5) 5.0	(31.5) 2.3	10.9	(76.1) 8.3	(23.9) 2.6
殺人	9.3	(74.2) 6.9	(25.8) 2.4	6.9	(69.6) 4.8	(30.4) 2.1	11.7	(77.8) 9.1	(22.2) 2.6
強盗致傷	8.5	(69.4) 5.9	(30.6) 2.6	7.5	(66.7) 5.0	(33.3) 2.5	10.7	(72.9) 7.8	(27.1) 2.9
覚せい剤取締法 違反	8.3	(71.1) 5.9	(28.9) 2.4	7.1	(64.8) 4.6	(35.2) 2.5	9.0	(73.3) 6.6	(26.7) 2.4
現住建造物等放 火	8.2	(76.8) 6.3	(23.2) 1.9	6.5	(73.8) 4.8	(26.2) 1.7	11.1	(79.3) 8.8	(20.7) 2.3
傷害致死	8.6	(73.3) 6.3	(26.7) 2.3	6.9	(71.0) 4.9	(29.0) 2.0	11.0	(74.5) 8.2	(25.5) 2.8
(準)強姦致死傷	8.6	(73.3) 6.3	(26.7) 2.3	7.3	(75.3) 5.5	(24.7) 1.8	11.2	(70.5) 7.9	(29.5) 3.3
(準)強制わいせ つ致死傷	7.2	(69.4) 5.0	(30.6) 2.2	6.6	(66.7) 4.4	(33.3) 2.2	9.5	(73.7) 7.0	(26.3) 2.5
強盗強姦	9.9	(72.7) 7.2	(27.3) 2.7	8.3	(72.3) 6.0	(27.7) 2.3	12.1	(72.7) 8.8	(27.3) 3.3
強盗致死(強盗 殺人)	12.0	(75.0) 9.0	(25.0) 3.0	9.5	(63.2) 6.0	(36.8) 3.5	12.8	(78.1) 10.0	(21.9) 2.8
麻薬特例法違反	11.1	(53.2) 5.9	(46.8) 5.2	10.6	(46.2) 4.9	(53.8) 5.7	13.5	(74.1) 10.0	(25.9) 3.5

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による。
 2 ()は平均審理期間に対する割合(%)である。
 3 本表には、判決人員が上位10位までの罪名を挙げた。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

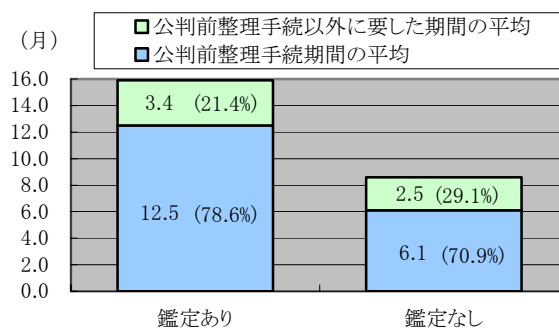
図表37 自白否認別の公判前整理手続期間の分布及び平均公判前整理手続期間

	判決人員	公 判 前 整 理 手 続 期 間															平均公判前整理手続期間(月)	
		15日以内	1月以内	2月以内	3月以内	6月以内	9月以内	1年以内	1年3月以内	1年6月以内	1年9月以内	2年以内	2年3月以内	2年6月以内	2年9月以内	3年以内		3年を超える
総数	1,513	-	-	52	183	656	337	158	72	35	13	5	1	1	-	-	-	6.4
自白	873	-	-	49	156	462	145	41	16	4	-	-	-	-	-	-	-	5.0
否認	640	-	-	3	27	194	192	117	56	31	13	5	1	1	-	-	-	8.3

(注) 刑事通常第一審事件票による実人員である。

図表38 第1回公判期日前の鑑定(法50条)の有無別の平均審理期間及び平均公判前整理手続期間

	平均審理期間(月)	公判前整理手続期間の平均(月)	公判前整理手続以外に要した期間の平均(月)
鑑定あり	15.9	(78.6) 12.5	(21.4) 3.4
鑑定なし	8.6	(70.9) 6.1	(29.1) 2.5



(注) 1 刑事通常第一審事件票による。
2 () は平均審理期間に対する割合(%)である。

図表39 開廷回数別の平均審理期間及び平均公判前整理手続期間

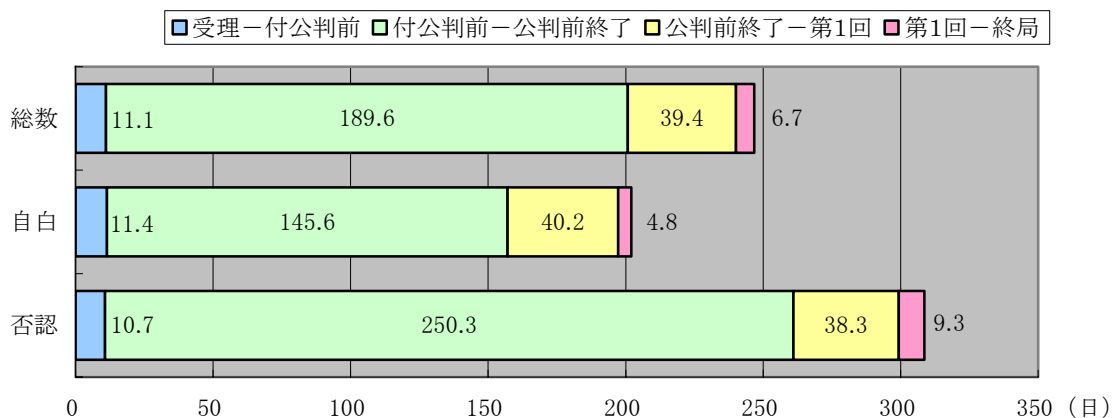
	判決 人員	平均審理 期間(月)	うち公判前 整理手続期 間の平均 (月)	うち公判前 整理手続以 外に要した 期間の平均 (月)
総数	1,525	8.9	(71.9) 6.4	(28.1) 2.5
2回以下	44	5.3	(62.3) 3.3	(37.7) 2.0
3回	582	6.7	(67.2) 4.5	(32.8) 2.2
4回	508	8.6	(72.1) 6.2	(27.9) 2.4
5回以上	391	12.9	(75.2) 9.7	(24.8) 3.2

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 ()は平均審理期間に対する割合(%)である。
 3 裁判員裁判対象事件以外の事件について公判を開いた後、
 裁判員裁判対象事件が併合されたものを含む。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

裁判員裁判対象事件の受理から終局までの期間を、受理から公判前整理手続に付す旨の決定まで、同決定から同手続終了まで、同手続終了から第1回公判まで及び第1回公判から終局までの審理段階ごとの平均日数（自白・否認別）を算出し、グラフ化したものが、図表40である。

図表40 審理段階別の平均日数（自白否認別）



- (注) 1 刑事通常第一審事件票による。
 2 公判を開いた後に公判前整理手続等に付された事件（例：裁判員裁判対象事件以外の事件係属中に裁判員裁判対象事件の追起訴があった事件等）を除く。
 3 公判前整理手続を一旦終了し、裁判員候補者の呼出しを行った後、第1回公判期日の前に、公判前整理手続を再開したものがある。
 4 実日数の平均によるため、図表35、36の平均審理期間及び平均公判前整理手続期間とは一致しない。

(3) 審理期間・開廷回数・実審理期間

自白・否認別の審理期間の平均及び分布状況は、図表4-1のとおりである。また、図表4-2は、開廷回数の分布と実審理期間の分布をクロス集計したものである。

開廷回数^{*11}と実審理期間をクロス集計することにより、公判期日の指定の在り方（連日的に指定されているのか、ある程度の間隔をおいて指定されているのか等）についての傾向を把握することが可能となる。

図表4-1 自白否認別の審理期間の分布及び平均審理期間

	判決 人員	審 理 期 間							平均審理 期間(月)
		3月 以内	4月 以内	5月 以内	6月 以内	9月 以内	1年 以内	1年を 超える	
総数	1,525	9	98	206	226	506	241	239	8.9
自白	885	9	93	165	167	312	83	56	7.3
否認	640	-	5	41	59	194	158	183	10.9

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 裁判員裁判対象事件以外の事件について公判を開いた後、裁判員裁判対象事件が併合されたものを含む。

図表4-2 実審理期間別・開廷回数別の判決人員の分布及び平均開廷回数

	判決 人員	開 廷 回 数							平均開廷 回数(回)	
		2回以下	3回	4回	5回	6回	7回	8回以上		
総数	1,525	44	582	508	191	75	53	72	4.1	
実 審 理 期 間	2日以内	24	23	1	-	-	-	-	2.0	
	3日	354	16	337	1	-	-	-	3.0	
	4日	354	2	164	187	1	-	-	3.5	
	5日	174	2	33	114	25	-	-	3.9	
	10日以内	425	1	47	197	136	37	7	4.4	
	20日以内	124	-	-	6	20	31	34	33	6.8
	20日を超える	70	-	-	3	9	7	12	39	8.1

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 裁判員裁判対象事件以外の事件について公判を開いた後、裁判員裁判対象事件が併合されたものを含む。

*11 開廷回数には、公判準備期日（刑事訴訟法281条に基づく証人尋問等が行われた期日）の回数が含まれるほか、1日の中で複数の期日が指定されることも考えられることから、開廷回数と実日数は、必ずしも一致しないが、概ね近似する。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

開廷回数の各平均及び分布状況（罪名別、自白・否認別、第1回公判期日前の鑑定の有無別）は、図表4-3ないし図表4-5のとおりである（なお、取調べ証人数別の開廷回数分布状況については、図表5-6を参照。）。

図表4-3 開廷回数別の判決人員の分布及び平均開廷回数（罪名別）

	判決人員	開 廷 回 数							平均開廷回数(回)
		2回以下	3回	4回	5回	6回	7回	8回以上	
総数	1,525	44	582	508	191	75	53	72	4.1
殺人	337	7	107	134	42	20	13	14	4.3
強盗致傷	320	8	120	103	46	17	9	17	4.2
覚せい剤取締法違反	167	9	87	48	13	4	4	2	3.6
現住建造物等放火	151	6	60	59	15	5	4	2	3.8
傷害致死	131	3	38	41	25	9	7	8	4.4
(準)強姦致死傷	88	3	43	25	9	1	2	5	4.0
(準)強制わいせつ致死傷	87	4	53	22	4	2	1	1	3.5
強盗強姦	46	-	18	14	5	2	-	7	4.5
強盗致死(強盗殺人)	42	-	5	16	4	7	3	7	5.3
麻薬特例法違反	39	-	13	13	6	3	1	3	4.5
偽造通貨行使	26	3	18	4	1	-	-	-	3.1
逮捕監禁致死	25	-	4	1	11	1	7	1	5.4
危険運転致死	17	-	8	6	1	-	-	2	4.2
傷害	8	-	-	5	2	1	-	-	4.5
保護責任者遺棄致死	8	-	1	2	2	1	-	2	5.9
通貨偽造	5	1	2	2	-	-	-	-	3.2
集団(準)強姦致死傷	5	-	1	2	2	-	-	-	4.2
強盗	5	-	1	1	1	-	2	-	5.2
(準)強姦	3	-	-	2	1	-	-	-	4.3
拐取者身の代金取得等	3	-	-	3	-	-	-	-	4.0
組織的犯罪処罰法違反	3	-	-	1	-	1	-	1	6.0
銃刀法違反	2	-	1	1	-	-	-	-	3.5
麻薬取締法違反	2	-	-	2	-	-	-	-	4.0
非現住建造物等放火	1	-	-	-	1	-	-	-	5.0
ガス漏出等致死	1	-	1	-	-	-	-	-	3.0
強制わいせつ	1	-	1	-	-	-	-	-	3.0
自殺関与及び同意殺人	1	-	-	1	-	-	-	-	4.0
窃盗	1	-	-	-	-	1	-	-	6.0

(注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。

2 裁判員裁判対象事件以外の事件について公判を開いた後、裁判員裁判対象事件が併合されたものを含む。

図表4-4 開廷回数別の判決人員の分布及び平均開廷回数（自白否認別）

	判決人員	開 廷 回 数							平均開廷回数(回)
		2回以下	3回	4回	5回	6回	7回	8回以上	
総数	1,525	44	582	508	191	75	53	72	4.1
自白	885	41	478	268	61	16	8	13	3.6
否認	640	3	104	240	130	59	45	59	4.9

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 裁判員裁判対象事件以外の事件について公判を開いた後、裁判員裁判対象事件が併合されたものを含む。

図表4-5 開廷回数別の判決人員の分布及び平均開廷回数（第1回公判期日前の鑑定（法50条）の有無別）

	判決人員	開 廷 回 数							平均開廷回数(回)
		2回以下	3回	4回	5回	6回	7回	8回以上	
総数	1,525	44	582	508	191	75	53	72	4.1
鑑定あり	56	-	3	21	15	6	5	6	5.3
鑑定なし	1,469	44	579	487	176	69	48	66	4.1

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 裁判員裁判対象事件以外の事件について公判を開いた後、裁判員裁判対象事件が併合されたものを含む。

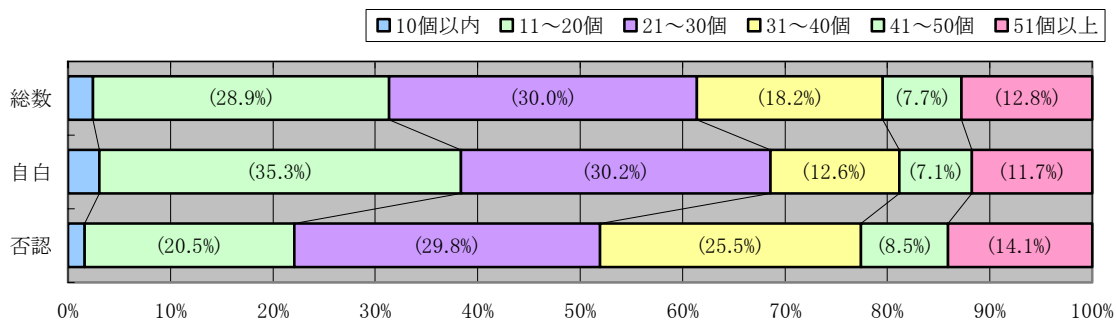
(4) 公判審理（証拠調べ）

取調べ証拠数，取調べ証人数，罪名別の取調べ証人数，自白・否認別の証人尋問の合計時間並びに取調べ証人1人当たりの証人尋問時間，被告人質問時間の各平均及び分布状況を自白・否認別にみると，図表46ないし図表51のとおりである（なお，平均取調べ証人数の法定合議事件全体との比較については，図表57を参照。）。

図表46 取調べ証拠数別の終局件数の分布及び平均取調べ証拠数（自白否認別）

	終局 件数	取 調 べ 証 拠 数						平均取調べ 証拠数 (個)
		10個以内	11～20個	21～30個	31～40個	41～50個	51個以上	
総数	1,442	35	417	433	262	111	184	32.5
自白	818	25	289	247	103	58	96	30.9
否認	624	10	128	186	159	53	88	34.7

- (注) 1 刑事局への個別報告による件数建てであり，概数である。
2 取調べ証拠数には証人を含む。

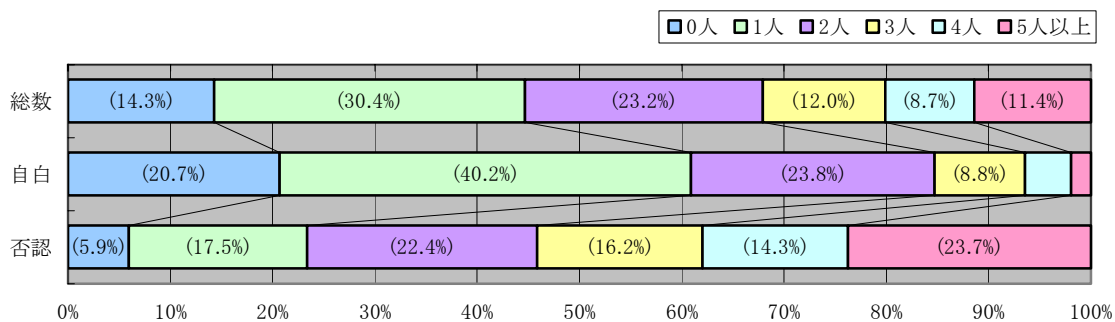


第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

図表4-7 取調べ証人数別の終局件数の分布及び平均取調べ証人数（自白否認別）

	終 局 件 数							平均取調べ証人数 (人)
	総数	取 調 べ 証 人 数						
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	
総数	1,442	206	438	335	173	126	164	2.3
自白	818	169	329	195	72	37	16	1.5
否認	624	37	109	140	101	89	148	3.4

(注) 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。



図表4-8 取調べ証人数別の終局件数の分布及び平均取調べ証人数（罪名別）

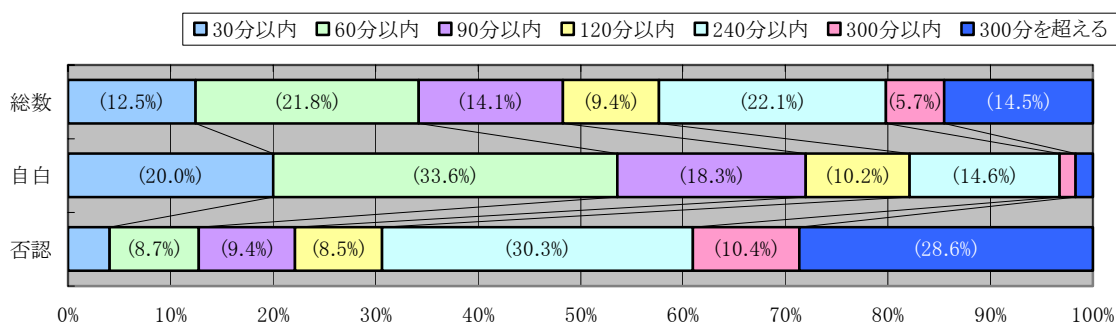
	終 局 件 数							平均取調べ証人数 (人)
	総数	取 調 べ 証 人 数						
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	
総数	1,442	206	438	335	173	126	164	2.3
殺人	336	30	87	87	47	42	43	2.7
強盗致傷	277	53	82	54	32	24	32	2.2
覚せい剤取締法違反	161	48	49	33	13	9	9	1.6
現住建造物等放火	149	23	46	39	19	7	15	2.1
傷害致死	122	10	28	23	24	13	24	3.0
(準)強姦致死傷	87	8	38	24	9	3	5	1.9
(準)強制わいせつ致死傷	87	8	41	26	6	3	3	1.6
強盗強姦	46	7	14	15	4	2	4	2.0
強盗致死(強盗殺人)	42	3	6	7	4	10	12	3.9
麻薬特例法違反	35	8	13	7	4	1	2	1.5
偽造通貨行使	25	5	15	3	1	-	1	1.4
危険運転致死	16	1	3	3	4	-	5	3.3
逮捕監禁致死	15	-	1	3	-	7	4	4.6
傷害	8	-	1	3	2	1	1	2.9
保護責任者遺棄致死	7	-	1	2	-	2	2	4.1
強盗	5	-	2	2	1	-	-	1.8
通貨偽造	5	1	3	1	-	-	-	1.0
集団(準)強姦致死傷	3	-	1	-	1	1	-	2.7
(準)強姦	3	-	1	2	-	-	-	1.7
組織的犯罪処罰法違反	3	-	1	1	-	1	-	2.3
銃刀法違反	2	-	1	-	-	-	1	3.0
拐取者身の代金取得等	2	-	1	-	1	-	-	2.0
麻薬取締法違反	1	1	-	-	-	-	-	-
窃盗	1	-	-	-	1	-	-	3.0
ガス漏出等致死	1	-	1	-	-	-	-	1.0
自殺関与及び同意殺人	1	-	-	-	-	-	1	5.0
(準)強制わいせつ	1	-	1	-	-	-	-	1.0
非現住建造物等放火	1	-	1	-	-	-	-	1.0

(注) 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

図表49 証人尋問時間別の終局件数の分布及び平均証人尋問時間（自白否認別）

	終局 件数	証 人 尋 問 時 間							平均証人尋 問時間(分)
		30分 以内	60分 以内	90分 以内	120分 以内	240分 以内	300分 以内	300分 を超える	
総数	1,236	154	269	174	116	273	71	179	165.4
自白	649	130	218	119	66	95	10	11	80.2
否認	587	24	51	55	50	178	61	168	259.6

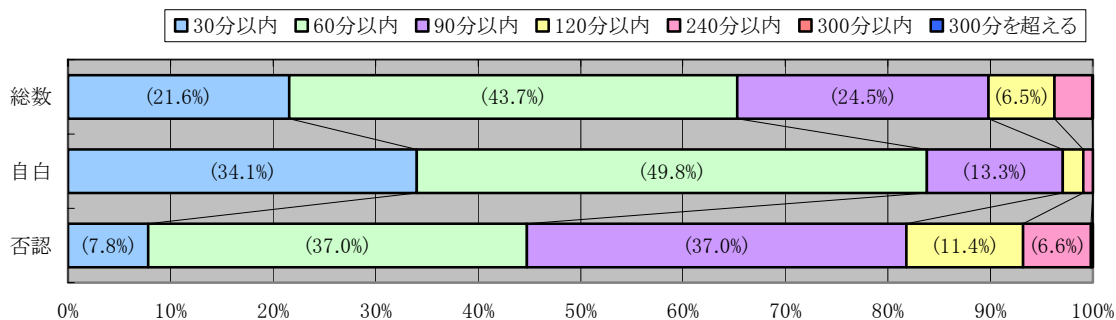
(注) 1 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。
2 証人尋問を実施していないものを除く。



図表50 証人1人当たりの証人尋問時間別の終局件数の分布及び証人1人当たりの平均証人尋問時間（自白否認別）

	終局 件数	証 人 1 人 当 た り の 証 人 尋 問 時 間							証人1人当た りの平均証人 尋問時間 (分)
		30分 以内	60分 以内	90分 以内	120分 以内	240分 以内	300分 以内	300分 を超える	
総数	1,236	267	540	303	80	45	1	-	56.4
自白	649	221	323	86	13	6	-	-	43.7
否認	587	46	217	217	67	39	1	-	70.4

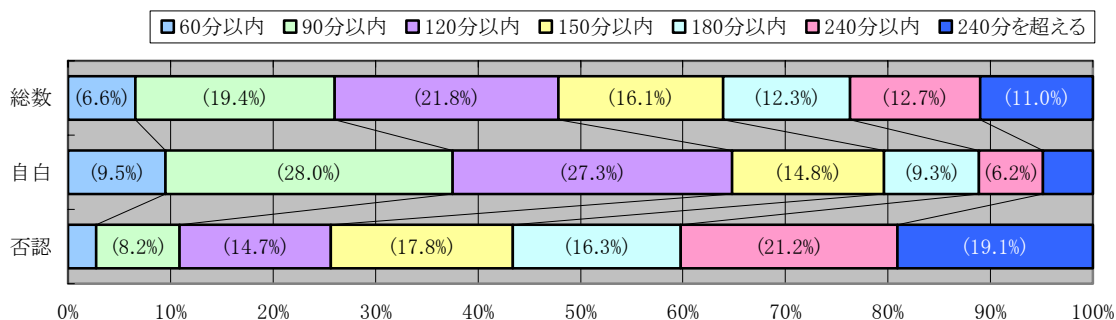
(注) 1 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。
2 証人尋問を実施していないものを除く。



図表5-1 被告人質問時間別の終局件数の分布及び平均被告人質問時間（自白否認別）

	終局 件数	被 告 人 質 問 時 間							平均被告人 質問時間 (分)
		60分 以内	90分 以内	120分 以内	150分 以内	180分 以内	240分 以内	240分 を超える	
総数	1,442	95	280	315	232	178	183	159	150.3
自白	818	78	229	223	121	76	51	40	119.4
否認	624	17	51	92	111	102	132	119	190.9

(注) 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。



取調べ証人数、証人尋問時間及び被告人質問時間の各分布状況（開廷時間の分布別）は、図表5-2ないし図表5-4のとおりである（なお、開廷時間の平均及び法定合議事件全体との比較については、図表5-7を参照。）。

図表5-2 開廷時間別・取調べ証人数別の終局件数の分布

	終局 件数	取 調 べ 証 人 数						
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	
総数	1,442	206	438	335	173	126	164	
開 廷 時 間	5時間以内	164	56	80	25	3	-	-
	6時間以内	153	50	70	26	5	1	1
	7時間以内	145	31	62	30	17	4	1
	8時間以内	120	13	52	33	20	2	-
	9時間以内	125	21	38	45	10	10	1
	10時間以内	107	11	35	36	16	7	2
	11時間以内	105	5	15	41	25	15	4
	12時間以内 12時間を超える	113 410	11 8	29 57	30 69	16 61	13 74	14 141

(注) 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

図表5-3 開廷時間別・証人尋問時間別の終局件数の分布

	終局 件数	証 人 尋 問 時 間						開廷時間に 占める証人 尋問時間の 割合(%)	
		30分 以内	60分 以内	90分 以内	120分 以内	240分 以内	240分 を超える		
総数	1,236	154	269	174	116	273	250	23.4	
開 廷 時 間	5時間以内	108	48	45	12	2	1	-	15.6
	6時間以内	103	33	39	20	8	3	-	15.6
	7時間以内	114	20	44	24	12	14	-	17.2
	8時間以内	107	15	31	27	12	22	-	17.6
	9時間以内	104	9	29	17	16	32	1	19.2
	10時間以内	96	8	27	19	9	29	4	17.9
	11時間以内	100	4	10	13	22	43	8	21.6
	12時間以内	102	8	16	12	12	30	24	22.1
12時間を超える	402	9	28	30	23	99	213	27.2	

- (注) 1 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。
 2 「開廷時間に占める証人尋問時間の割合」は、開廷時間の各区分における終局件数の証人尋問時間の合計を、同件数の開廷時間の合計で除す方法により算出した。
 3 証人尋問を実施していないものを除く。

図表5-4 開廷時間別・被告人質問時間別の終局件数の分布

	終局 件数	被 告 人 質 問 時 間							開廷時間に 占める被告人 質問時間の 割合(%)	
		60分 以内	90分 以内	120分 以内	150分 以内	180分 以内	240分 以内	240分 を超える		
総数	1,442	95	280	315	232	178	183	159	22.7	
開 廷 時 間	5時間以内	164	45	78	31	8	2	-	-	30.6
	6時間以内	153	20	54	53	15	9	2	-	29.1
	7時間以内	145	11	41	42	31	14	6	-	28.0
	8時間以内	120	4	28	37	23	15	12	1	27.0
	9時間以内	125	6	21	32	34	16	15	1	25.1
	10時間以内	107	2	21	33	30	16	4	1	21.4
	11時間以内	105	2	10	22	20	26	17	8	24.6
	12時間以内	113	-	12	19	22	20	28	12	24.1
12時間を超える	410	5	15	46	49	60	99	136	19.6	

- (注) 1 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。
 2 「開廷時間に占める被告人質問時間の割合」は、開廷時間の各区分における終局件数の被告人質問時間の合計を、同件数の開廷時間の合計で除す方法により算出した。

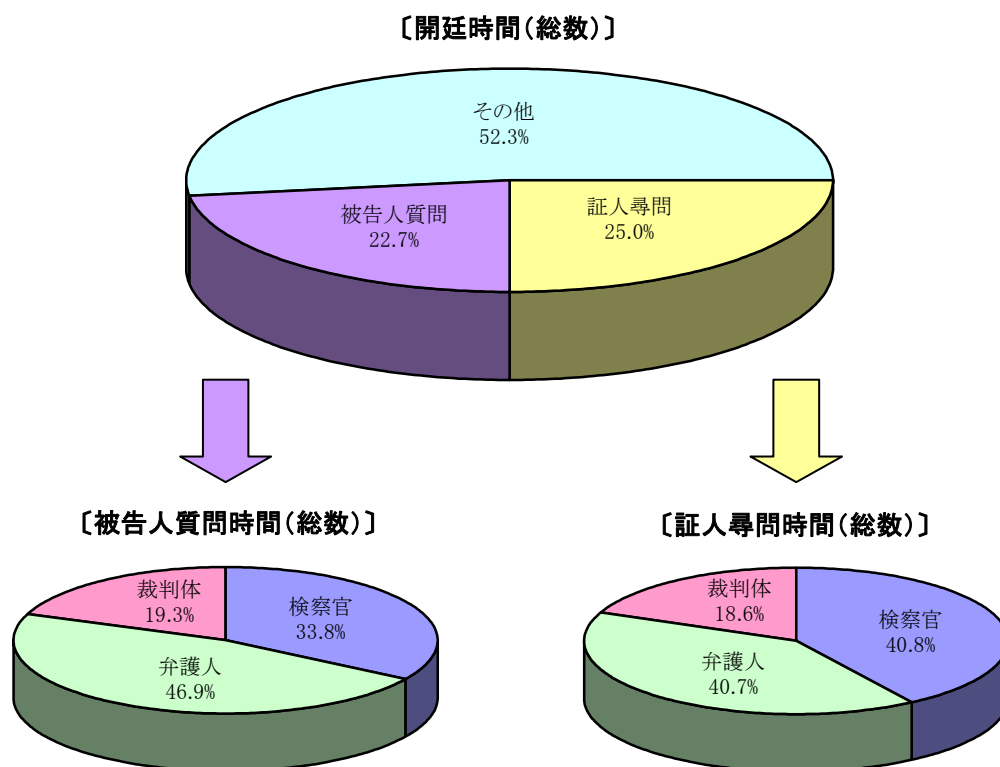
第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

平均証人尋問時間及び平均被告人質問時間について、検察官、弁護士及び裁判体の各尋問（質問）時間の平均を自白・否認別にみると、図表55のとおりであり、下の円グラフは、開廷時間に占めるそれぞれの時間の割合をグラフ化したものである。また、開廷回数の分布別に取調べ証人数の分布状況をみると、図表56のとおりである。

図表55 平均証人尋問時間及び平均被告人質問時間の内訳（自白否認別）

	平均開廷時間(分)	平均証人尋問時間(分)	うち			平均被告人質問時間(分)	うち		
			検察官	弁護士	裁判体		検察官	弁護士	裁判体
総数	662.3	165.4	67.4	67.2	30.7	150.3	50.8	70.5	29.0
自白	492.0	80.2	27.5	35.2	17.5	119.4	39.0	55.1	25.2
否認	885.5	259.6	111.5	102.7	45.4	190.9	66.2	90.7	34.0

- (注) 1 刑事局への個別報告による概数である。
 2 「平均証人尋問時間」には、証人尋問を実施していないものを除く。



- (注) 証人尋問を実施した終局件数と終局総件数が異なるため、本グラフの平均開廷時間に占める平均証人尋問時間の割合は、図表53と一致しない。

図表56 取調べ証人数別の終局件数の分布（開廷回数別）

		終局 件数	取 調 べ 証 人 数					
			0人	1人	2人	3人	4人	5人以上
総数		1,442	206	438	335	173	126	164
開 廷 回 数	2回以内	45	19	23	3	-	-	-
	3回	589	151	264	132	33	8	1
	4回	475	33	118	152	87	54	31
	5回	166	3	24	35	33	40	31
	6回以上	167	-	9	13	20	24	101

(注) 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

法定合議事件全体と裁判員裁判対象事件における自白・否認別の平均開廷時間と平均取調べ証人数を比較したものが、図表57である。

図表57 自白否認別の平均開廷時間及び平均取調べ証人数

	平均開廷時間(分)			平均取調べ証人数(人)		
	総数	自白	否認	総数	自白	否認
法定合議事件総数	513.0	334.0	882.9	1.9	1.1	3.5
うち裁判員裁判対象事件	676.8	522.5	894.4	2.2	1.4	3.4

- (注) 1 刑事通常第一審事件票によるため開廷時間には公判準備に要した時間は含まない。
 2 終局時の罪名が裁判所法26条2項2号に該当する事件のうち、有罪人員（一部無罪を含む。）及び無罪人員を掲げた。
 3 図表55は個別報告による概数であり、本表と開廷時間が異なる場合がある。
 4 取調べ証人数は延べ人員で計上する場合があるため図表47とは異なる。

(5) 客観的併合

公訴事実の数ごとにみた証拠調べの状況や、開廷回数、開廷時間の状況（自白・否認別）は、図表58ないし図表61のとおりである。

図表58-1 公訴事実の数別・取調べ証拠数別の終局件数の分布及び平均取調べ証拠数（自白事件）

		終局 件数	取 調 べ 証 拠 数					平均取調べ 証拠数(個)	
			10個以内	11～20個	21～30個	31～40個	41～50個		51個以上
総数		818	25	289	247	103	58	96	30.9
公 訴 事 実 の 数	1個	457	23	217	136	40	20	21	25.8
	2個	152	2	50	60	23	7	10	28.1
	3個	74	-	11	28	14	12	9	36.4
	4個	42	-	6	11	7	6	12	38.9
	5個以上	93	-	5	12	19	13	44	52.6

(注) 1 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。
2 取調べ証拠数は、延べ数である。

図表58-2 公訴事実の数別・取調べ証拠数別の終局件数の分布及び平均取調べ証拠数（否認事件）

		終局 件数	取 調 べ 証 拠 数					平均取調べ 証拠数(個)	
			10個以内	11～20個	21～30個	31～40個	41～50個		51個以上
総数		624	10	128	186	159	53	88	34.7
公 訴 事 実 の 数	1個	374	9	109	120	77	27	32	29.5
	2個	120	1	17	35	42	12	13	34.5
	3個	55	-	-	20	21	5	9	40.2
	4個	22	-	1	6	5	4	6	42.3
	5個以上	53	-	1	5	14	5	28	62.8

(注) 1 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。
2 取調べ証拠数は、延べ数である。

図表59-1 公訴事実の数別・証人尋問時間及び被告人質問時間の合計別の終局件数の分布並びに平均時間（自白事件）

	終局 件数	証人尋問時間及び被告人質問時間の合計							平均時間 (分)	
		60分 以内	90分 以内	120分 以内	180分 以内	240分 以内	300分 以内	301分 以上		
総数	818	27	80	150	250	138	79	94	182.9	
公 訴 事 実 の 数	1個	457	16	45	82	154	72	41	47	179.0
	2個	152	5	15	34	45	22	15	16	176.6
	3個	74	4	7	12	17	16	10	8	183.2
	4個	42	1	4	9	11	11	1	5	177.4
	5個以上	93	1	9	13	23	17	12	18	215.2

(注) 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

図表59-2 公訴事実の数別・証人尋問時間及び被告人質問時間の合計別の終局件数の分布並びに平均時間（否認事件）

	終局 件数	証人尋問時間及び被告人質問時間の合計							平均時間 (分)	
		60分 以内	90分 以内	120分 以内	180分 以内	240分 以内	300分 以内	301分 以上		
総数	624	1	10	8	67	86	84	368	435.2	
公 訴 事 実 の 数	1個	374	-	4	3	46	54	58	209	402.6
	2個	120	-	2	2	11	15	13	77	451.4
	3個	55	1	2	1	6	9	4	32	478.5
	4個	22	-	2	1	1	2	1	15	479.5
	5個以上	53	-	-	1	3	6	8	35	565.2

(注) 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

図表60-1 公訴事実の数別・開廷回数別の終局件数の分布及び平均開廷回数
(自白事件)

	終局 件数	開 廷 回 数					平均開廷 回数(回)	
		2回以下	3回	4回	5回	6回以上		
総数	818	42	483	235	41	17	3.4	
公 訴 事 実 の 数	1個	457	36	288	113	16	4	3.3
	2個	152	2	97	43	9	1	3.4
	3個	74	2	41	27	3	1	3.5
	4個	42	1	22	15	2	2	3.6
	5個以上	93	1	35	37	11	9	4.0

(注) 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

図表60-2 公訴事実の数別・開廷回数別の終局件数の分布及び平均開廷回数
(否認事件)

	終局 件数	開 廷 回 数					平均開廷 回数(回)	
		2回以下	3回	4回	5回	6回以上		
総数	624	3	106	240	125	150	4.9	
公 訴 事 実 の 数	1個	374	2	77	161	74	60	4.5
	2個	120	-	16	39	24	41	5.0
	3個	55	1	7	18	11	18	5.2
	4個	22	-	4	5	6	7	5.4
	5個以上	53	-	2	17	10	24	6.2

(注) 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

図表6 1 - 1 公訴事実の数別・開廷時間別の終局件数の分布及び平均開廷時間
(自白事件)

	終局 件数	開 廷 時 間						平均開廷 時間(分)	
		360分 以内	420分 以内	480分 以内	540分 以内	600分 以内	601分 以上		
総数	818	285	119	75	77	69	193	492.0	
公 訴 事 実 の 数	1個	457	189	68	44	47	29	80	449.7
	2個	152	57	27	8	12	9	39	471.7
	3個	74	18	13	9	5	9	20	512.0
	4個	42	10	4	6	3	6	13	535.4
	5個以上	93	11	7	8	10	16	41	698.0

(注) 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

図表6 1 - 2 公訴事実の数別・開廷時間別の終局件数の分布及び平均開廷時間
(否認事件)

	終局 件数	開 廷 時 間						平均開廷 時間(分)	
		360分 以内	420分 以内	480分 以内	540分 以内	600分 以内	601分 以上		
総数	624	32	26	45	48	38	435	885.5	
公 訴 事 実 の 数	1個	374	19	20	32	34	24	245	811.5
	2個	120	8	4	9	6	7	86	902.0
	3個	55	4	1	3	3	5	39	980.7
	4個	22	1	1	-	1	-	19	1039.0
	5個以上	53	-	-	1	4	2	46	1207.7

(注) 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

(6) 区分審理

裁判員法71条の区分審理による審理がされた事件の審判の数ごとの内訳は図表62のとおりであり、区分審理決定の有無別にみた開廷回数及び開廷時間の平均や分布の状況は、図表63及び図表64のとおりである。

区分審理決定のあった判決人員20人について、区分事件審判の実施状況をみると、裁判官のみで構成する合議体により審理及び裁判がされたもの（以下「裁判官のみの合議体」という。）は19個（うち自白8個、否認11個）、裁判官3人と裁判員6人で構成する合議体により審理及び裁判がされたもの（以下「裁判員を含む合議体」という。）は2個（否認）であった^{*12}。また、区分事件審判による部分判決の結果は、有罪（一部無罪を含む。）が19個、無罪が2個であった。

図表62 区分審理決定のあった判決人員及び審判の数ごとの内訳

判決人員	審 判 の 数				
	2個	3個	4個	5個	6個以上
20	19	1	-	-	-

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 審判の数は、区分事件審判の数と併合事件審判の数の合計である。

図表63 開廷回数別の判決人員の分布、平均開廷回数
 (区分審理決定の有無別)

	判決人員	開 廷 回 数							平均開廷回数(回)
		2回以内	3回	4回	5回	6回	7回	8回以上	
総数	1,525	44	582	508	191	75	53	72	4.1
区分審理決定あり	20	-	-	-	-	1	5	14	9.1
区分審理決定なし	1,505	44	582	508	191	74	48	58	4.1

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 「区分審理決定あり」の開廷回数は、区分事件審判及び併合事件審判の各開廷回数を合算したものである。

*12 区分事件審判における公判が開かれた平均合計時間は、裁判官のみの合議体では自白が101.3分、否認が502.1分、裁判員を含む合議体では1,399分（否認）であり、平均開廷回数は、裁判官のみの合議体では自白が1.8回、否認が3.5回、裁判員を含む合議体では6.5回（否認）であった。

図表64 開廷時間別の判決人員の分布及び平均開廷時間（区分審理決定の有無別）

	判決人員	開 廷 時 間							平均開廷時間(分)
		360分以内	480分以内	600分以内	720分以内	840分以内	960分以内	960分を超える	
総数	1,525	312	277	236	237	125	91	247	678.8
区分審理決定あり	20	-	-	-	3	-	-	17	1,674.4
区分審理決定なし	1,505	312	277	236	234	125	91	230	665.6

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 開廷時間には公判準備に要した時間は含まない。
 3 「区分審理決定あり」の開廷時間は、区分事件審判及び併合事件審判の各開廷時間を合算したものである。
 4 図表55は個別報告による概数であり、本表と開廷時間が異なる場合がある。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

(7) 被害者参加・刑事損害賠償命令

裁判員裁判対象事件における罪名別の参加申出をした被害者等の数及び被害者等の参加の態様等は、図表65のとおりである。

なお、刑事損害賠償命令申立てがあった判決人員は、99人である。

図表65 裁判員裁判における被害者参加の状況（罪名別）

	判決人員	参加を申し出た被害者等					
			うち参加を許可された被害者等	うち証人尋問をした被害者等	うち被告人質問をした被害者等	うち刑訴法316条の38の意見陳述をした被害者等	うち刑訴法292条の2の意見陳述をした被害者等
総数	185	323	320	60	178	202	223
殺人	69	135	134	33	79	77	95
傷害致死	39	54	53	15	35	37	36
強盗致死(強盗殺人)	18	45	45	3	17	29	24
強盗致傷	17	19	19	-	13	12	18
(準)強姦致死傷	12	12	12	4	8	9	12
(準)強制わいせつ致死傷	11	14	14	3	9	11	10
危険運転致死	5	11	11	-	-	8	9
強盗強姦	5	12	11	1	4	6	6
保護責任者遺棄致死	3	9	9	-	5	3	3
(準)強姦	2	2	2	1	1	1	2
集団(準)強姦致死傷	2	8	8	-	6	8	6
傷害	1	1	1	-	-	-	1
窃盗	1	1	1	-	1	1	1

(注) 1 刑事通常第一審事件票による延べ人員(判決人員は実人員)である。
2 被害者等の数は、延べ人員である。

4 評議

評議時間の平均及び分布状況（自白・否認別，罪名別及び開廷回数別）は，図表66ないし図表68のとおりである。なお，評議時間は，最終評議のみの時間であり，中間評議の時間を含まない。

図表66 評議時間別の判決人員の分布及び平均評議時間（自白否認別）

	判決人員	評 議 時 間							平均評議時間(分)
		240分以内	360分以内	480分以内	600分以内	720分以内	840分以内	840分を超える	
総数	1,525	74	283	382	287	200	99	200	564.1
自白	885	69	218	272	162	83	37	44	468.4
否認	640	5	65	110	125	117	62	156	696.3

(注) 刑事通常第一審事件票による実人員である。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

図表67 評議時間別の判決人員の分布及び平均評議時間（罪名別）

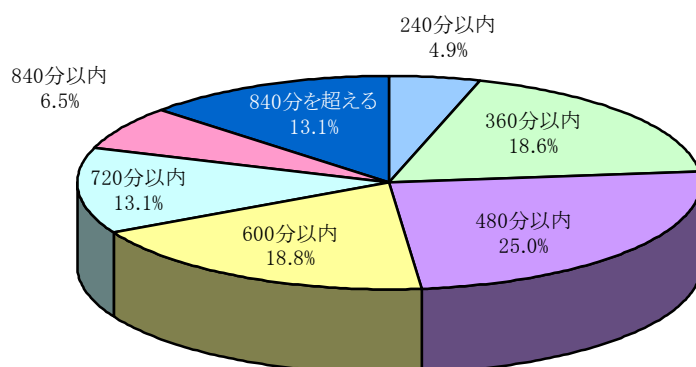
	判決人員	評 議 時 間							平均評議時間(分)
		240分以内	360分以内	480分以内	600分以内	720分以内	840分以内	840分を超える	
総数	1,525	74	283	382	287	200	99	200	564.1
殺人	337	10	49	81	64	40	33	60	625.3
強盗致傷	320	17	63	90	53	41	19	37	529.2
覚せい剤取締法違反	167	7	33	38	35	28	10	16	544.5
現住建造物等放火	151	12	36	40	27	19	6	11	497.5
傷害致死	131	6	19	29	30	15	11	21	586.4
(準)強姦致死傷	88	2	17	27	14	12	6	10	537.0
(準)強制わいせつ致死傷	87	9	21	28	14	10	2	3	449.6
強盗強姦	46	3	6	11	11	6	2	7	618.0
強盗致死(強盗殺人)	42	-	4	6	4	6	5	17	913.7
麻薬特例法違反	39	3	8	11	7	4	2	4	497.6
偽造通貨行使	26	3	8	6	7	1	1	-	421.3
逮捕監禁致死	25	-	3	6	4	8	-	4	607.9
危険運転致死	17	1	7	2	3	1	-	3	531.3
傷害	8	-	1	-	2	3	-	2	708.8
保護責任者遺棄致死	8	-	1	3	1	-	1	2	778.1
通貨偽造	5	-	3	1	-	1	-	-	395.0
集団(準)強姦致死傷	5	-	3	-	-	2	-	-	488.0
強盗	5	1	-	1	1	2	-	-	467.0
(準)強姦	3	-	-	1	2	-	-	-	501.7
拐取者身の代金取得等	3	-	-	-	-	-	-	3	878.3
組織的犯罪処罰法違反	3	-	-	-	2	1	-	-	605.0
銃刀法違反	2	-	-	-	2	-	-	-	595.0
麻薬取締法違反	2	-	-	-	2	-	-	-	535.0
非現住建造物等放火	1	-	1	-	-	-	-	-	315.0
ガス漏出等致死	1	-	-	1	-	-	-	-	410.0
(準)強制わいせつ	1	-	-	-	-	-	1	-	805.0
自殺関与及び同意殺人	1	-	-	-	1	-	-	-	585.0
窃盗	1	-	-	-	1	-	-	-	540.0

(注) 刑事通常第一審事件票による実人員である。

図表68 評議時間別の判決人員の分布及び平均評議時間（開廷回数別）

		判決 人員	評 議 時 間						平均 評議 時間 (分)	
			240分 以内	360分 以内	480分 以内	600分 以内	720分 以内	840分 以内		840分 を超える
総数		1,525	74	283	382	287	200	99	200	564.1
開 廷 回 数	2回以下	44	5	23	10	5	1	-	-	361.8
	3回	582	57	157	192	114	38	14	10	427.5
	4回	508	10	76	126	118	84	45	49	561.5
	5回	191	2	15	37	27	48	20	42	659.8
	6回以上	200	-	12	17	23	29	20	99	921.0

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 裁判員裁判対象事件以外の事件について公判を開いた後、裁判員裁判対象事件が併合されたものを含む。



5 裁判の結果

罪名別、自白・否認別に控訴人員をみると、図表69のとおりであり、庁別・罪名別の終局区分及び罪名別の量刑分布状況は、図表70及び図表71のとおりである。

図表69 罪名別・自白否認別の判決人員及び控訴人員

	判決人員	うち 自 白		うち 否 認	
		うち控訴		うち控訴	
総数	1,525	885	209	640	333
殺人	337	170	36	167	79
強盗致傷	320	217	71	103	54
覚せい剤取締法違反	167	61	14	106	70
現住建造物等放火	151	95	14	56	17
傷害致死	131	75	13	56	29
(準)強姦致死傷	88	59	18	29	19
(準)強制わいせつ致死傷	87	68	7	19	8
強盗強姦	46	27	9	19	9
強盗致死(強盗殺人)	42	10	6	32	24
麻薬特例法違反	39	33	12	6	4
偽造通貨行使	26	25	3	1	1
逮捕監禁致死	25	16	-	9	5
危険運転致死	17	5	2	12	8
傷害	8	-	-	8	2
保護責任者遺棄致死	8	4	-	4	2
通貨偽造	5	5	-	-	-
集団(準)強姦致死傷	5	5	3	-	-
強盗	5	2	-	3	1
(準)強姦	3	1	-	2	-
拐取者身の代金取得等	3	3	-	-	-
組織的犯罪処罰法違反	3	1	-	2	-
銃刀法違反	2	-	-	2	1
麻薬取締法違反	2	2	1	-	-
非現住建造物等放火	1	-	-	1	-
ガス漏出等致死	1	1	-	-	-
(準)強制わいせつ	1	-	-	1	-
自殺関与及び同意殺人	1	-	-	1	-
窃盗	1	-	-	1	-

(注) 刑事通常第一審事件票による実人員である。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

図表70-1 庁別・終局区分別の終局人員

庁名	終局人員	有罪	一部無罪・ 有罪	無罪	家裁へ移送	その他
総数	1,570	1,508	6	10	1	45
東京地裁本庁	136	129	1	3	1	2
東京地裁立川支部	40	37	-	-	-	3
横浜地裁本庁	84	78	-	-	-	6
横浜地裁小田原支部	12	10	-	-	-	2
さいたま地裁本庁	77	77	-	-	-	-
千葉地裁本庁	202	195	-	2	-	5
水戸地裁本庁	25	25	-	-	-	-
宇都宮地裁本庁	26	26	-	-	-	-
前橋地裁本庁	20	20	-	-	-	-
静岡地裁本庁	8	8	-	-	-	-
静岡地裁沼津支部	13	13	-	-	-	-
静岡地裁浜松支部	7	6	-	1	-	-
甲府地裁本庁	12	12	-	-	-	-
長野地裁本庁	11	11	-	-	-	-
長野地裁松本支部	11	11	-	-	-	-
新潟地裁本庁	14	14	-	-	-	-
大阪地裁本庁	113	110	-	2	-	1
大阪地裁堺支部	41	39	1	-	-	1
京都地裁本庁	35	33	-	-	-	2
神戸地裁本庁	43	41	-	1	-	1
神戸地裁姫路支部	14	14	-	-	-	-
奈良地裁本庁	11	11	-	-	-	-
大津地裁本庁	18	18	-	-	-	-
和歌山地裁本庁	11	11	-	-	-	-
名古屋地裁本庁	77	69	-	-	-	8
名古屋地裁岡崎支部	21	20	-	-	-	1
津地裁本庁	15	15	-	-	-	-
岐阜地裁本庁	23	23	-	-	-	-
福井地裁本庁	7	7	-	-	-	-
金沢地裁本庁	11	11	-	-	-	-
富山地裁本庁	4	4	-	-	-	-
広島地裁本庁	34	34	-	-	-	-
山口地裁本庁	5	5	-	-	-	-
岡山地裁本庁	29	29	-	-	-	-
鳥取地裁本庁	3	3	-	-	-	-
松江地裁本庁	3	3	-	-	-	-
福岡地裁本庁	56	55	1	-	-	-
福岡地裁小倉支部	14	14	-	-	-	-
佐賀地裁本庁	6	6	-	-	-	-
長崎地裁本庁	5	4	1	-	-	-
大分地裁本庁	17	17	-	-	-	-
熊本地裁本庁	11	11	-	-	-	-
鹿児島地裁本庁	26	26	-	-	-	-
宮崎地裁本庁	8	8	-	-	-	-
那覇地裁本庁	19	17	1	-	-	1
仙台地裁本庁	17	15	1	1	-	-
福島地裁本庁	16	16	-	-	-	-
福島地裁郡山支部	22	16	-	-	-	6
山形地裁本庁	11	10	-	-	-	1
盛岡地裁本庁	6	5	-	-	-	1
秋田地裁本庁	4	4	-	-	-	-
青森地裁本庁	15	15	-	-	-	-
札幌地裁本庁	37	37	-	-	-	-
函館地裁本庁	7	6	-	-	-	1
旭川地裁本庁	8	8	-	-	-	-
釧路地裁本庁	11	11	-	-	-	-
高松地裁本庁	13	12	-	-	-	1
徳島地裁本庁	8	8	-	-	-	-
高知地裁本庁	5	5	-	-	-	-
松山地裁本庁	10	10	-	-	-	-
その他	2	-	-	-	-	2

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 終局区分の「その他」は、公訴棄却、移送等である。
 3 庁名の「その他」は、裁判員裁判に関する事務を取り扱う支部以外の支部に起訴された人員である。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

図表70-2 罪名別・終局区分別の終局人員

罪名	終局人員	有罪	有罪・一部無罪	無罪	家裁へ移送	その他
総数	1,570	1,508	6	10	1	45
殺人	345	333	2	2	-	8
強盗致傷	331	318	-	1	1	11
覚せい剤取締法違反	169	162	-	5	-	2
現住建造物等放火	155	148	3	-	-	4
傷害致死	134	129	-	2	-	3
(準)強姦致死傷	96	88	-	-	-	8
(準)強制わいせつ致死傷	88	86	1	-	-	1
強盗強姦	53	46	-	-	-	7
強盗致死(強盗殺人)	42	42	-	-	-	-
麻薬特例法違反	39	39	-	-	-	-
偽造通貨行使	26	26	-	-	-	-
逮捕監禁致死	25	25	-	-	-	-
危険運転致死	17	17	-	-	-	-
傷害	8	8	-	-	-	-
保護責任者遺棄致死	8	8	-	-	-	-
通貨偽造	5	5	-	-	-	-
集団(準)強姦致死傷	5	5	-	-	-	-
強盗	5	5	-	-	-	-
(準)強姦	3	3	-	-	-	-
拐取者身の代金取得等	3	3	-	-	-	-
組織的犯罪処罰法違反	3	3	-	-	-	-
銃刀法違反	2	2	-	-	-	-
麻薬取締法違反	2	2	-	-	-	-
非現住建造物等放火	1	1	-	-	-	-
ガス漏出等致死	1	1	-	-	-	-
(準)強制わいせつ	1	1	-	-	-	-
自殺関与及び同意殺人	1	1	-	-	-	-
窃盗	1	1	-	-	-	-
海賊行為処罰法違反	1	-	-	-	-	1

(注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
2 「その他」は、公訴棄却、移送等である。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

図表7-1 罪名別・量刑分布別（終局区分別を含む）の終局人員

	終局人員	終 局 区 分													無罪	家裁へ移送	その他	控訴申立人員	控訴率(%)											
		有 罪											3年以下	無罪						家裁へ移送	その他	控訴申立人員	控訴率(%)							
		有罪人員	死刑	無期懲役	有 期 懲 役																			執行猶予	うち 保護観察	無罪	家裁へ移送	その他	控訴申立人員	控訴率(%)
					30年以下	25年以下	20年以下	15年以下	10年以下	7年以下	5年以下	実刑																		
総数	1,570	1,514	9	24	19	25	71	173	306	293	263	91	240	136	10	1	45	542	35.6											
殺人	345	335	2	8	5	9	37	62	35	48	37	24	68	27	2	-	8	115	34.1											
強盗致傷	331	318	-	-	-	1	7	29	77	82	80	10	32	22	1	1	11	125	39.2											
覚せい剤取締法違反	169	162	-	-	-	-	7	21	90	31	5	6	2	2	5	-	2	84	50.3											
現住建造物等放火	155	151	-	-	1	-	-	3	8	23	39	20	57	42	-	-	4	31	20.5											
傷害致死	134	129	-	-	-	4	-	12	34	34	28	6	11	2	2	-	3	42	32.1											
(準)強姦致死傷	96	88	-	-	3	3	6	9	20	28	13	3	3	3	-	-	8	37	42.0											
(準)強制わいせつ致死傷	88	87	-	-	-	-	-	3	4	11	23	13	33	24	-	-	1	15	17.2											
強盗強姦	53	46	-	1	5	2	6	16	12	4	-	-	-	-	-	-	7	18	39.1											
強盗致死(強盗殺人)	42	42	7	15	5	4	3	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	30	71.4											
麻薬特例法違反	39	39	-	-	-	-	1	6	12	14	6	-	-	-	-	-	-	16	41.0											
偽造通貨行使	26	26	-	-	-	-	-	-	-	-	9	2	15	6	-	-	-	4	15.4											
逮捕監禁致死	25	25	-	-	-	-	-	-	3	4	7	1	10	2	-	-	-	5	20.0											
危険運転致死	17	17	-	-	-	-	-	2	2	6	4	3	-	-	-	-	-	10	58.8											
傷害	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	4	2	-	-	-	2	25.0											
保護責任者遺棄致死	8	8	-	-	-	-	-	-	2	2	2	1	1	1	-	-	-	2	25.0											
通貨偽造	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2	2	-	-	-	-	-											
集団(準)強姦致死傷	5	5	-	-	-	2	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	60.0											
強盗	5	5	-	-	-	-	1	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	1	20.0											
(準)強姦	3	3	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-											
拐取者身の代金取得等	3	3	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-											
組織的犯罪処罰法違反	3	3	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-											
銃刀法違反	2	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	50.0											
麻薬取締法違反	2	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	50.0											
非現住建造物等放火	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-											
ガス漏出等致死	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-											
(準)強制わいせつ	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-											
自殺関与及び同意殺人	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-											
窃盗	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-											
海賊行為処罰法違反	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-											

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 「その他」は、公訴棄却、移送等である。
 3 禁錮刑及び罰金刑の終局人員はない。

6 控訴

裁判員裁判による判決に対し、控訴を申し立てた人員につき、第一審の結果ごとの控訴理由及び控訴審結果の分布状況をみると、図表7-2及び図表7-3のとおりである（ただし、いずれも控訴審終局時を基準として作成する刑事控訴事件票に基づくデータであることに留意を要する。）。

また、平成20年及び平成21年の裁判員裁判対象罪名の事件と平成22年及び平成23年の裁判員裁判対象事件における第一審受理から控訴審終局までの審理期間のデータを参考添付した。

図表7-2 第一審結果別の控訴理由の分布（控訴審終局分）

第一審の結果	第一審 終局 人員	控訴審 終局 人員 総数	被 告 人 側							検 察 官						
			控訴審 終局人 員	刑事法 377・ 378条	訴訟手 続の法 令違 反・ 法令適 用の誤 り	量刑不 当	事実の 誤認	判決後 の情状	その他	控訴審 終局人 員	刑事法 377・ 378条	訴訟手 続の法 令違 反・ 法令適 用の誤 り	量刑不 当	事実の 誤認	判決後 の情状	その他
総数	1,570	552	547	34	110	420	316	65	1	6	-	2	2	4	-	-
死刑	9	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無期懲役	24	26	26	2	5	22	23	2	-	-	-	-	-	-	-	-
有期懲役	30年以下	19	11	11	2	7	11	11	2	-	1	-	-	1	-	-
	25年以下	25	18	18	1	7	18	14	2	-	-	-	-	-	-	-
	20年以下	71	37	37	3	6	29	19	5	-	-	-	-	-	-	-
	15年以下	173	87	86	6	24	66	50	7	-	1	-	1	1	1	-
	10年以下	306	140	140	6	25	103	88	15	1	-	-	-	-	-	-
	7年以下	293	107	107	7	16	81	55	10	-	-	-	-	-	-	-
	5年以下	263	88	88	5	9	68	38	16	-	-	-	-	-	-	-
	3年以下	331	35	33	2	11	22	18	6	-	2	-	1	-	1	-
うち 執行猶予	240	4	3	-	2	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	
罰金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無罪	10	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	
その他	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

(注) 1 刑事通常第一審事件票及び刑事控訴事件票による実人員である。
 2 控訴理由が複数ある場合には、各欄に重複して計上した。
 3 控訴の申立てが被告人側、検察官双方からされた場合には、各欄の「控訴審終局人員」に重複して計上した。
 4 控訴理由の「その他」は、刑の廃止・変更、大赦等である。
 5 控訴趣意書提出前取下げ等の理由で判明しなかった場合は掲げていない。ただし、控訴審終局人員総数には計上した。

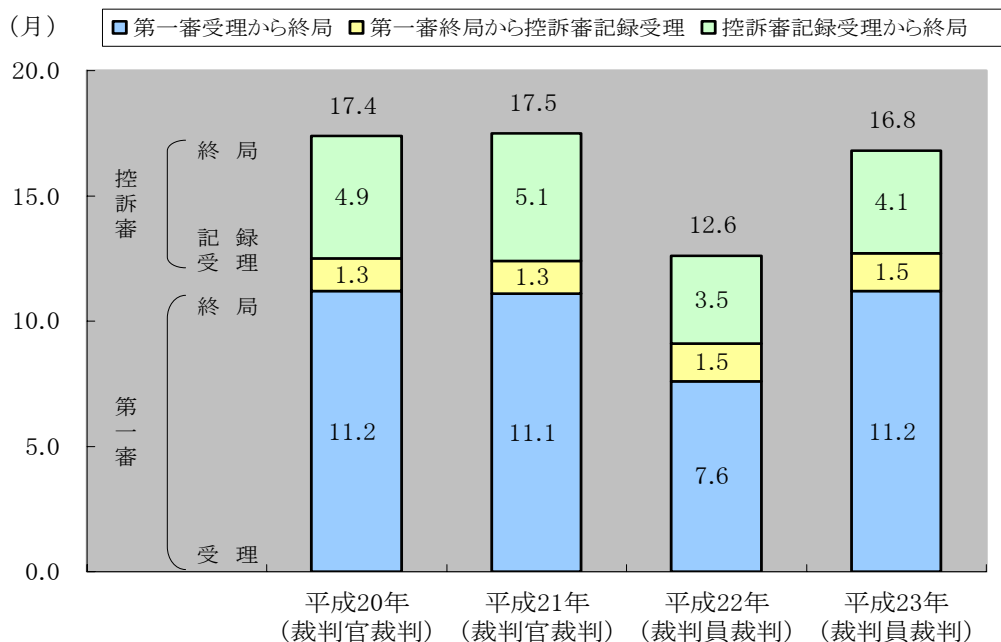
図表73 第一審結果別の控訴審結果の分布

第一審の結果	第一審終局人員	控訴審終局人員	控訴審の結果						上告申立人員	
			控訴棄却	破棄差戻	に3う よ9ち る7刑 も1訴 の項法	破棄自判	に3う よ9ち る7刑 も1訴 の項法	取下げ		その他
総数	1,570	552	444	2	2	41	15	63	2	243
死刑	9	1	-	-	-	-	-	1	-	-
無期懲役	24	26	25	-	-	-	-	1	-	20
有期懲役	30年以下	19	11	11	-	-	-	-	-	6
	25年以下	25	18	17	-	-	1	1	-	8
	20年以下	71	37	33	-	-	-	-	4	22
	15年以下	173	87	73	1	1	5	2	8	45
	10年以下	306	140	113	-	-	11	4	16	55
	7年以下	293	107	82	-	-	6	3	18	42
	5年以下	263	88	63	-	-	14	2	11	34
	3年以下 うち執行猶予	331 240	35 4	27 1	1 -	1 -	2 1	1 1	4 1	1 1
罰金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無罪	10	2	-	-	-	2	2	-	-	2
その他	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1 刑事通常第一審事件票及び刑事控訴事件票による実人員である。
 2 「上告申立人員」には、上告申立後、記録送付前に上告取下げがあった人員を含む。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

(参考) 控訴審における終局人員の審級別平均審理期間の推移



- (注) 1 刑事控訴事件票による。
 2 控訴審における終局人員のうち、処断罪名などが現住建造物等放火、通貨偽造、偽造通貨行使、(準)強制わいせつ致死傷、(準)強姦致死傷、集団(準)強姦致死傷、殺人、傷害致死、危険運転致死、身代金拐取、拐取者身代金取得等、強盗致傷、強盗致死(強盗殺人)、強盗強姦及び強盗強姦致死の15罪名のものに限る。
 3 終局人員は、平成22年(215人)及び平成23年(452人)は第一審において裁判員の参加する合議体により審理及び裁判がされた人員、平成20年(702人)及び平成21年(618人)は第一審において裁判官のみの合議体により審理及び裁判がされた人員である。

7 上告

第一審が裁判員裁判の控訴審判決に対する上告審の終局人員につき、控訴審の結果ごとの上告理由及び上告審結果の分布状況は、図表74及び図表75のとおりである。

また、平成20年及び平成21年の裁判員裁判対象罪名の事件と平成22年及び平成23年の裁判員裁判対象事件における第一審受理から上告審終局までの審理期間のデータを参考添付した。

図表74 控訴審結果別の上告理由の分布（上告審終局分）

控訴審の結果	上告審終局人員総数	被告人側							検察官側							双方							
		憲法違反	判例違反	法令違反	量刑不当	事実誤認	再審事由	その他	憲法違反	判例違反	法令違反	量刑不当	事実誤認	再審事由	その他	憲法違反	判例違反	法令違反	量刑不当	事実誤認	再審事由	その他	
総数	194	43	25	61	107	102	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
控訴棄却	184	41	24	58	102	98	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
破棄自判	死刑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無期	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	有期懲役	30年以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		25年以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		20年以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		15年以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		10年以下	4	-	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		7年以下	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		5年以下	3	2	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3年以下	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
うち執行猶予	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
無罪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
破棄差戻し・移送	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
公訴棄却	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

(注) 1 刑事上告事件票による実人員である。
 2 上告理由が複数ある場合には、各欄にそれぞれ重複して計上した。
 3 上告理由の「その他」は、刑の廃止・変更、大赦等である。
 4 上告趣意書提出前取下げ等の理由で判明しなかった場合は掲げていない。ただし、上告審終局人員には計上した。

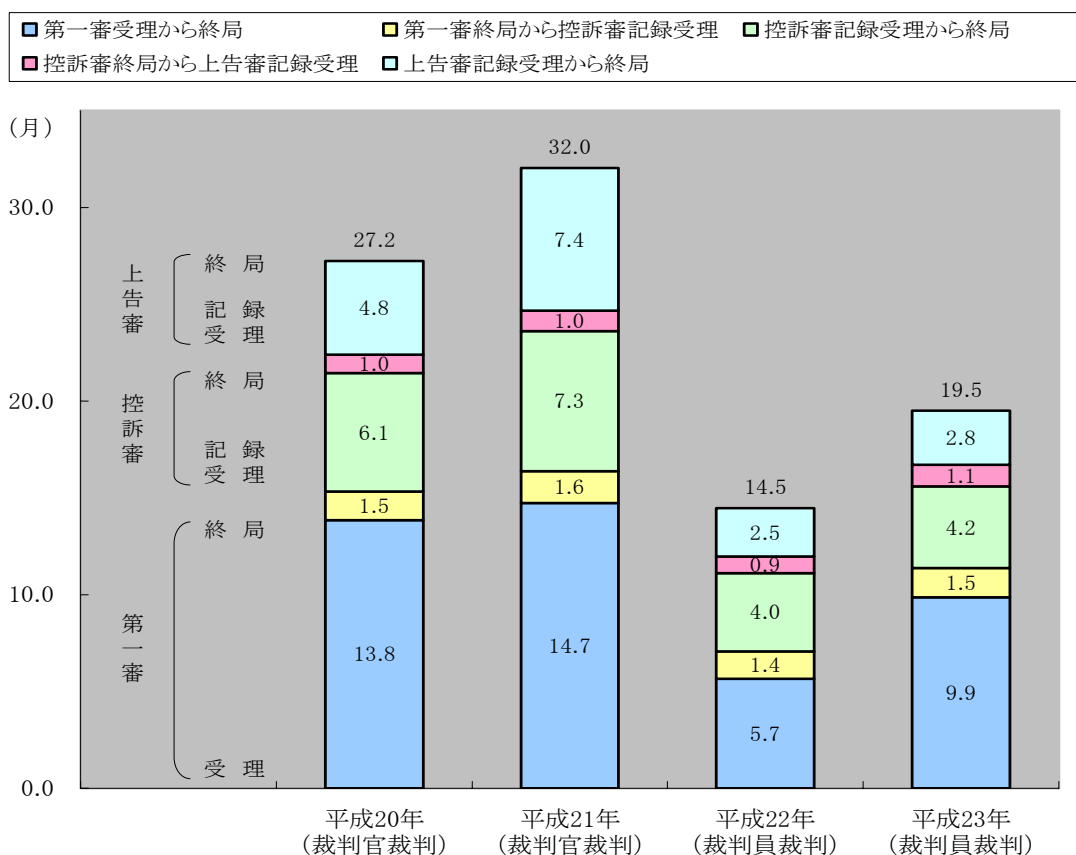
図表75 控訴審結果別の上告審結果の分布

控訴審の結果	上告審 終局 人員	上告棄却		破棄		公訴棄却	取下げ	
		判決	決定	差戻し ・移送	自判			
総数	194	1	151	-	1	2	39	
控訴棄却	184	1	143	-	1	2	37	
破棄 自判	死刑	-	-	-	-	-	-	
	無期	-	-	-	-	-	-	
	有期懲役	30年以下	-	-	-	-	-	-
		25年以下	-	-	-	-	-	-
		20年以下	-	-	-	-	-	-
		15年以下	-	-	-	-	-	-
		10年以下	4	-	3	-	-	1
		7年以下	2	-	1	-	-	1
		5年以下	3	-	3	-	-	-
		3年以下	1	-	1	-	-	-
うち執行猶予	-	-	-	-	-	-		
無罪	-	-	-	-	-	-		
破棄差戻し・移送	-	-	-	-	-	-		
公訴棄却	-	-	-	-	-	-		

(注) 刑事上告事件票による実人員である。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

(参考) 上告審における終局人員の審級別平均審理期間の推移



- (注) 1 刑事上告事件票による。
 2 上告審における終局人員のうち、処断罪名などが現住建造物等放火、通貨偽造、偽造通貨行使、(準)強制わいせつ致死傷、(準)強姦致死傷、集団(準)強姦致死傷、殺人、傷害致死、危険運転致死、身代金拐取、拐取者身代金取得等、強盗致傷、強盗致死(強盗殺人)、強盗強姦及び強盗強姦致死の15罪名のものに限る。
 3 終局人員は、平成22年(裁判員裁判)(33人)及び平成23年(裁判員裁判)(154人)は第一審において裁判員の参加する合議体により審理及び裁判がされた人員、平成20年(裁判官裁判)(259人)及び平成21年(裁判官裁判)(277人)は第一審において裁判官のみの合議体により審理及び裁判がされた人員である。

第4 その他

本項では、第2「裁判員等の選任に関する実施状況について」及び第3「裁判員の参加する公判手続の実施状況について」のいずれにも関係し、又はいずれにも該当しない統計数値を示すこととした。

具体的には、1) 弁護人の状況、2) 外国人事件の状況、3) 手話通訳人等の状況に関する統計数値を示し、最後に、4) 裁判員等に対する制裁の状況を示した。

弁護人の選任状況を罪名別にみると、図表76のとおりである。

図表76 弁護人の私選国選別の判決人員（罪名別）

	判決人員	私選弁護人が 選任された人員	国選弁護人が 選任された人員
総数	1,525	265 (17.4)	1,338 (87.7)
殺人	337	63 (18.7)	289 (85.8)
強盗致傷	320	33 (10.3)	296 (92.5)
覚せい剤取締法違反	167	25 (15.0)	153 (91.6)
現住建造物等放火	151	16 (10.6)	139 (92.1)
傷害致死	131	32 (24.4)	110 (84.0)
(準)強姦致死傷	88	19 (21.6)	76 (86.4)
(準)強制わいせつ致死傷	87	22 (25.3)	75 (86.2)
強盗強姦	46	7 (15.2)	41 (89.1)
強盗致死(強盗殺人)	42	3 (7.1)	42 (100.0)
麻薬特例法違反	39	16 (41.0)	27 (69.2)
偽造通貨行使	26	-	26 (100.0)
逮捕監禁致死	25	9 (36.0)	16 (64.0)
危険運転致死	17	6 (35.3)	11 (64.7)
傷害	8	3 (37.5)	6 (75.0)
保護責任者遺棄致死	8	2 (25.0)	6 (75.0)
通貨偽造	5	-	5 (100.0)
集団(準)強姦致死傷	5	1 (20.0)	4 (80.0)
強盗	5	1 (20.0)	4 (80.0)
(準)強姦	3	2 (66.7)	2 (66.7)
拐取者身の代金取得等	3	-	3 (100.0)
組織的犯罪処罰法違反	3	3 (100.0)	-
銃刀法違反	2	1 (50.0)	1 (50.0)
麻薬取締法違反	2	-	2 (100.0)
非現住建造物等放火	1	-	1 (100.0)
ガス漏出等致死	1	-	1 (100.0)
(準)強制わいせつ	1	1 (100.0)	-
自殺関与及び同意殺人	1	-	1 (100.0)
窃盗	1	-	1 (100.0)

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 同一被告人に対し私選弁護人及び国選弁護人が選任された場合には重複して計上した。
 3 () は判決人員に対する割合 (%) である。

通訳翻訳人の付いた外国人の被告人につき、主要罪名別及び言語別に判決人員数をみると、図表77及び図表78のとおりである。

図表77 罪名別の通訳翻訳人の付いた外国人の判決人員

	判決人員	うち通訳翻訳人の付いた外国人
総数	1,525	172 (11.3)
殺人	337	11 (3.3)
強盗致傷	320	16 (5.0)
覚せい剤取締法違反	167	124 (74.3)
現住建造物等放火	151	2 (1.3)
傷害致死	131	6 (4.6)
(準)強姦致死傷	88	2 (2.3)
(準)強制わいせつ致死傷	87	1 (1.1)
強盗強姦	46	-
強盗致死(強盗殺人)	42	-
麻薬特例法違反	39	4 (10.3)
偽造通貨行使	26	3 (11.5)
逮捕監禁致死	25	-
危険運転致死	17	-
傷害	8	1 (12.5)
保護責任者遺棄致死	8	-
通貨偽造	5	-
集団(準)強姦致死傷	5	-
強盗	5	-
(準)強姦	3	-
拐取者身の代金取得等	3	-
組織的犯罪処罰法違反	3	-
銃刀法違反	2	-
麻薬取締法違反	2	2 (100.0)
非現住建造物等放火	1	-
ガス漏出等致死	1	-
(準)強制わいせつ	1	-
自殺関与及び同意殺人	1	-
窃盗	1	-

(注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。

2 () は判決人員に対する割合 (%) である。

図表78 言語別の通訳翻訳人の付いた外国人の判決人員

	判決 人員
総数	172
中国語	40
北京語	32
広東語	7
台湾語	1
英語	43
スペイン語	26
ペルシャ語	12
ポルトガル語	9
ドイツ語	6
ロシア語	6
韓国・朝鮮語	5
フランス語	4
ルーマニア語	4
ハンガリー語	3
タイ語	2
フィリピン(タガログ)語	2
トルコ語	2
スワヒリ語	2
ベトナム語	1
ネパール語	1
ベンガル語	1
チェコ語	1
ブルガリア語	1
スロバキア語	1

(注) 刑事通常第一審事件票による実人員である。

裁判員候補者及び裁判員等に対し、手話通訳、要約筆記、点字翻訳を要したとして報告がされた状況は、図表80のとおりであり、障害のある裁判員候補者及び裁判員等に対し、何らかの対応を行ったとして報告がされた事件は42件あった。

なお、手話通訳人等を付した被告人はいなかった。

図表79 手話通訳人等の付いた被告人の判決人員
(該当なし)

図表80 手話通訳・要約筆記・点字翻訳を要した裁判員候補者、裁判員等の員数

	選任手続期日に出席した裁判員候補者	選任された裁判員・補充裁判員
総数	44,150	11,803
うち手話通訳	6	1
うち要約筆記	7	2
うち点字翻訳	5	1

- (注) 1 総数のうち選任手続期日に出席した裁判員候補者は、刑事通常第一審事件票による延べ人員である。
2 1以外の人員は、刑事局への個別報告による実人員であり、概数である。

裁判員候補者及び裁判員等に対する制裁を行ったとして報告がされた事件はなかった。

図表81 裁判員法違反事件の処理状況
(該当なし)